



鳥取県美しいもりづくり功労者

森のめぐみを活かす



藤原 真澄

氏は、鳥取県山林樹苗協同組合の理事長として、キャビティーコンテナ苗や生分解性ポット苗等の低コストで確実に活着する優良苗木育苗技術の習得を中心となって進めてきた。また、全国植樹祭の植栽樹木検討委員会副委員長への就任や、苗木のスクールステイやホームステイへの供給等を通して、全国植樹祭開催準備へ協力している。



小倉 良一

氏は、鳥取県椎茸生産組合連合会の会長を長年に渡って務め、県産原木シイタケの振興、発展に寄与してきた。また、後継者育成、食育活動に積極的に取り組みつつ、自らのシイタケ栽培においては、作業道開設などにより作業を軽減し、永続できる栽培環境を整え、他の生産者の模範となっている。



倉吉市関金町森林・林業研究会

当会は、間伐・枝打など保育技術の向上を目指し研究・研鑽を行いつつ、シイタケやマイタケの生産技術の向上にも取り組んできた。近年は、地元高校生への間伐・枝打作業の指導、小学生へのシイタケ植菌体験などを実施し、森林・林業教育にも、積極的に取り組んでいる。



賀茂地域協議会

当協議会は、三朝町賀茂地域の地域振興・活性化を目指す住民組織であり、竹林整備や竹・タケノコ加工品の開発製造、田舎暮らし体験ツーリズムの展開や施設運営、希少種ミツガシワやハナモモを守る自然環境・景観の保全活動など中山間地域の資源を活かした活動を積極的に展開している。



田村 清

氏は、昭和30年代から長年に渡ってシイタケ生産に従事し、シイタケの振興・発展に貢献してきた。また、地元椎茸生産部長を30年間務め、良品生産や収量向上を指導し、部員の生産意欲を喚起した。現在も鳥取県椎茸生産組合連合会の顧問として、小学校での植菌体験、生産者への体験学習などに積極的に参加し、後継者の養成に貢献している。



特定非営利活動法人 養生の郷

当法人は、森林の保全と地域の振興に繋がる「かくや姫の郷」構想に取り組み、タケノコ栽培の為に竹林整備を進め、安心安全なタケノコを学校給食等に提供する一方、毎年、「やまもりびとの森の感謝祭」を開催し、自然の恵みへの感謝と森林を守る心を育てる活動にも取り組んでいる。



三徳地域協議会

当協議会は、三朝町三徳地域の地域振興・活性化を目指す住民組織であり、竹林整備や竹・タケノコ加工品の開発製造、田舎暮らし体験ツーリズムの展開や施設運営、希少種ミツガシワやハナモモを守る自然環境・景観の保全活動など中山間地域の資源を活かした活動を積極的に展開している。

森のめぐみを活かす



高勢地域協議会

当協議会は、三朝町高勢地域の地域振興・活性化を目指す住民組織であり、原木ナメコの栽培など地域の森林資源を有効に利用した特産品づくりを進めつつ、森林の整備、森林・自然と触れ合う活動、環境美化活動を行うなど、中山間地域の資源を活かした活動を積極的に進めている。



白根 暢之

氏は、昭和33年から家業の苗木作りに取り組み、平成15年より鳥取日野森林組合理事に就任。平成21年には筆頭理事となり、平成24年まで3期9年間理事を歴任してきた。また、林業用苗木及び花木ポット苗を生産するかわら、各種林業イベントにおいては、苗木の無料提供を行い、近年では、自ら植林した山林の手入れを行う等、率先して地域の森林育成に取り組んでいる。



前田 一男

氏は、40年間の長年に渡ってシイタケの生産・普及に向けた様々な活動を積極的に行ってきた。特に、平成18年度に中心となって立ちあげた「きのこ王国いなば」は、原木の安定確保と増産、伐採後の原木林の更新、ブランド化及び新規生産者育成を総合的に展開し、地域のシイタケ生産の発展に貢献している。



幅田 元男

氏は、樹木がもたらえる安らぎを地域の人々に感じてほしいとの思いから、昭和30年代より、米子市内の公園緑化を企画提案し、その中心的役割を担ってきた。その後、本物の自然を身近に感じる大切であるとの思いから、出身地である南部町緑水湖周辺で、私財を投じて森林公園周辺にモミジ等を植栽し、現在では県内外から多くの人が訪れる素晴らしい環境となっている。



植田 喜雄

氏は、青谷地区の原木シイタケ生産の先駆者の一人で、増産と品質向上に努め、地域のシイタケ生産の発展に貢献してきた。また、ほだ場や原木林の造成のための森林整備を積極的に行い、モデル的な原木シイタケ生産を行っている。平成24年度に鳥取市で開催された全国椎茸品評会の開催にも尽力した。



藪田 道男

氏は、梨の木の廃材を利用したオリジナル手作り工芸品の生産や子供から大人まで幅広い年齢層を対象にした木工教室の開催を通じて、「木の良さ」を普及する活動を積極的に展開するとともに、県内の木工芸品作家の共同生産や共同販売を推進するなど、県内木工芸品の振興に貢献している。

緑を守り育てる



入江 清人

氏は、八頭中央森林組合の役員として、地元の森林を中心に、長年、低コスト林業の実現を目標に作業道を開設し、共有林の間伐等に尽力している。また所有者が複数にわたる森林を団地化して、搬出間伐を実施し、さらには近隣集落の森林所有者等に働きかけ、枝打ちや雑木の伐採等地元周辺の景観改善活動にも中心的な役割を果たしている。



八頭中央森林組合

当組合は、年100回以上にも及ぶ集落説明会等により組合員との合意形成を図りつつ、森林施業の集約化と高密度路網整備による低コストな搬出間伐を推進している。その結果、当組合の間伐は、ここ数年間で飛躍的に推進され、林業振興と地域活性化につながっている。



國廣 良男

氏は、昭和29年から昭和43年まで社村森林組合、昭和43年から用瀬町森林組合(現鳥取八頭森林組合)に従事し、58年間の長年に渡って、林道や作業道の整備、高性能林業機械の導入により、施業を効率化させ、林業経営の近代化を図り、地域林業の発展に貢献している。



森っ子倶楽部

当団体は、平成11年に設立され、所属する30才代から80才代までの幅広い世代の会員を集めて、県内各地の森林で、枝打ち、間伐、竹林整備、ナラ枯れ被害防止などに取り組み、森林整備や緑化の推進に貢献している。



小河内集落

当集落は、高密度路網の整備による低コスト林業の推進に取り組み、平成15年から継続的に搬出間伐を行ってきた。当集落有林での搬出間伐の成功が個人有林や他地域へ波及し、地域全体の取り組みへと拡大しており、地域林業の振興に貢献している。



牛尾 淳一

氏は、昭和63年から鳥取県東部森林組合作業班員、平成16年から作業班長として、長年に渡って造林・保育作業に従事し、若手技術者の育成、指導に尽力しつつ、卓越した技能をもって森林整備に努め、地域林業の発展に貢献している。



緑の豊かさを伝える



下古川里山クラブ

当クラブは、竹林などで荒廃した地域の里山を蘇らせようと平成20年1月、同級生4人で設立、毎月26日の里山の日には、ボランティアにも呼びかけて、整備活動を続けるかたわら、町内会と一緒に里山ウォーキング大会を開催したり、子どもたちと樹名板を取り付ける等、交流の輪を広げている。

緑を守り育てる



牧田 幸一郎

氏は、鳥取県中部森林組合に従事し、組合員を始め、地域住民へ誠意をもって接しつつ、豊富な林業知識と経験をもって、地域林業の発展に尽くし、部下の育成指導はもとより、林業労働者の雇用拡大や林業後継者の育成に尽力するかたわら、林業関係の地域活動として地元三朝中学校の「学校サポート隊」のコーディネーターとしても貢献している。



大篠津地区自治連合会

当自治連合会は、住民参加の松林里親制度(アダプトプログラム)等に積極的に参加し、弓ヶ浜半島の保安林の美化活動へ取り組むかたわら、松林利用者にゴミの持ち帰りを呼びかけるなど、熱心な巡視活動を展開し、マナー向上に繋げている。



妹尾 勇

氏は、昭和48年、日南町森林組合伐採作業班員に従事し、平成19年には作業班長となり、今日までの長年に渡って、卓越した伐出技術をもって優良材生産に努め、地域林業の発展に貢献してきた。また、時代に即して、作業の安全と低コスト化を模索しながら、高性能林業機械導入へのアドバイザーの立場で、安定した木材供給体制の構築に貢献した。



下神自治会

当会は、平成15年から環境保全活動として抵抗性クロマツ・イスノキの植栽・管理による防風林造成の取り組みを継続し、現在では植栽木も樹高3mを超えるまで成長した。これらの取り組みにより、防風松林の機能が高まり、後背畑地等が保全されるとともに、地域特有の松林景観の保全形成に役立っている。



和田町マツ守り隊

当守り隊は、和田町自治連合会により結成され、住民参加の松林里親制度(アダプトプログラム)等に積極的に参加し、弓ヶ浜半島の保安林の美化活動や植樹を通じて地域住民や子どもたちに、地元の松林の大切さを伝えるイベントなどを展開している。



河畔倶楽部

当倶楽部は、南部町が「千本桜の名所」となることを目指し、昭和27年から法勝寺川周辺の山林、川土手へ桜を植栽し、施肥、病気予防、剪定等のボランティア活動を長年実施しており、これにより法勝寺の桜は毎年素晴らしい花を咲かせている。



宇田川 光雄

氏は、平成2年、江府町森林組合(現鳥取日野森林組合)の造林作業員に従事して以来、22年間、数多くの森林整備を手がけたほか、新規林業労働者等の育成にも尽力してきた。また、下刈作業において特に卓越した技術の持ち主であり、作業員からの信頼も厚い。

緑の豊かさを伝える



伊澤 寛治

氏は、地元財産区管理会長、森林保全巡視員として長年に渡って地域の森林整備に関わるとともに、植林体験による地元小学生への森林・林業教育や、地域住民と行う、東郷池の水質改善や東郷池周辺の環境保全活動などに幅広く取り組み、「森・川・里・池(海)の繋がりが」や「森林保全の大切さ」を伝えている。



一向平森林保全協会

当協会は、一向平周辺の優れた森林・自然環境を保全しながら触れ合う活動を20年余りに渡って継続実施し、森林・自然の大切さの普及啓発を進めつつ、児童を対象として、広葉樹植栽・草刈り・間伐、シイタケ・ナメコ生産、炭焼きなど、森林・林業教育を行っている。



大山町立中山中学校

当中学校は、所有する学校林を計画的、組織的に活用し、生徒たちが、入学から卒業までの3年間、自分の木を決めて世話をする「一人一木活動」を展開している。最近では、生徒の育林活動に共鳴する団体も現れ、「一木活動」の取り組みは、地域全体の活動へと広がっている。



若桜町立若桜学園

当学園は、平成5年にみどりの少年団を結成し、森のめぐみや緑の豊かさを体験、学習する森林・林業教育を積極的に取り入れ、「森林の町若桜」の次代を担う子ども達に対し、森林を守り・育てる意識の醸成を図っている。特に近年は、「総合的な学習時間」において、行政や地域住民と協働・連携し、林業体験の実施や森林の持つ働き等の学習に力を入れている。



特定非営利活動法人里山地域研究会

当研究会は、平成13年度から三朝町内の里山整備の取り組みを開始し、同会が造成した「実のなる木体験の森」など町内の里山を活動拠点として、里山で森林・林業(植樹、保育、キノコ植菌など)やアウトドアの体験活動を継続実施しつつ、里山の放置竹林の整備活動や、タケノコ出荷の取組を行っている。



伯耆町立八郷小学校

当小学校は、所有する学校林約25haを、計画的、組織的に活用し、子どもたちに様々な体験活動を通して緑の大切さ等を教えつつ、大山にある貴重な自然を地域住民とともに活用することにより、子どもたちの「自信」や「誇り」を育んでいる。



白馬の会

当会は、毛無山の自然を多くの人々に知らせ、守り、後世に伝えていくことを目的に結成され、ゴールデンウィークに満開となる毛無山のカタクリの開花に合わせて、毎年4月29日に毛無山登山道開祭を開催。登山道管理も年間を通じた活動として取り組んでいる。



谷口 雅啓

氏は、長年、林木育種関係機関に勤務し、現在も嘱託職員としてその機関の所有試験林等の維持管理を任せられるなど、緑化木の育苗に関する知識が深く、智頭町観光協会副会長として、国道373号線沿いに植樹されている町の観光名所の一つである、桜土手の桜の手入れを委嘱され、10年以上続けている。

緑の豊かさを伝える



鳥取県立智頭農林高等学校

当高校では、木材の有効利用と加工技術に関する学習、森に親しみ、その有効利用と森林技術に関する学習を行い、林業・木材加工を中心とした地域産業に貢献できる人材を育てている。近年は、「曲げわっぱ」の作成講座や体験活動を通じて杉の持つ良さや使い方について学習する取り組みを行っている。



公益社団法人鳥取青年会議所

当会議所は、鳥取市近郊にシイタケの森を整備し、青少年やその保護者など幅広い世代でシイタケを育てる活動を実施しつつ、原木シイタケの植菌、もぎとり体験等のイベントを通じて、子どもたちに自然環境の大切さを伝えている。



サントリーホールディングス株式会社

当社は、鳥取県において平成20年に稼働を始めた「サントリー天然水奥大山ブナの森工場」の水源涵養エリアの森林を整備するため、現在までに約359haの森林をサントリー「天然水の森 奥大山」として設定し整備しつつ、「天然水の森 奥大山」をフィールドに、小学生を対象にした、サントリー水育「森と水の学校」を開設し、水を育む森の大切さについて次世代への啓発活動を行っている。



特別功労



岸田 鉄男

氏は、平成14年から鳥取市林業振興協議会会長として、間伐の推進による地域の森林整備に尽力してきた。また、平成18年から鳥取県林業研究グループ連絡協議会会長に就任し、林業教室の開催、造林コンクールの実施及び先進地視察を行い、林業研究グループや会員相互の活性化を図るとともに林業技術の向上に尽力している。



黒坂小学校PTA

当PTAは、町のツツジの名所となっている滝山公園に、親子でミツバツツジを植樹したり、町が毎年行っている公園の草刈り作業にも率先して参加するなど、郷土に対する思いや愛着を醸造する活動を長年に渡り行っている。



森下 洋一

氏は、鳥取県中部森林組合長として、平成3年から、いち早く森林の団地化を推進し、作業道整備や間伐に積極的に取り組み、これが礎となり森林経営計画の作成率(65%)の向上につながっている。平成8年には、高性能林業機械を駆使し間伐材を搬出する、若手作業員グループ「ホープ」を結成、平成15年からは「緑の雇用」事業を活用し、45人を雇用するなど、地域の森林整備や林業の活性化に貢献している。